

- 国語科の授業のアイデアを広げたい!
- 具体的な実践事例を知りたい!
- 授業の導入に使える小話はないだろうか?

そんな先生方のために、秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

## コロナ禍における、 学習課題と授業方法の工夫

東京都東村山市立東村山第二中学校  
人見 誠

### 1 生徒の実態を把握し、基礎を 定着させる課題の工夫

長い期間になってしまった臨時休校の間、多くの現場教師は生徒の学力を保障するためにはどうすればよいか苦慮した。かく言う私も、四月から赴任した学校で生徒の実態が見えない中、あれこれと思い巡らせた一人である。長期間になることが予想される中で私が考えたことは、「課題を工夫することで生徒の実態を把握する」ことであつた。国語の課題と比べて、すぐに思いつくのは漢字の学習であろう。しかし、それだけでは十分とはいえない。そこで思いついたのが、「視写」と「条件作文」である。

「視写」は、時間を指定して取り組ませることで、速く正確に書く力と原稿用紙が正しく使えるかを図ることができる。また条件作文は、原稿用紙の使い方、他の、整った文が書けるか、論理的な考え方をすることができると図ることができる。普段なら大まかなチェックしかできないものが、この時期を利用して丁寧に分析することができると考えたのである。

そして実際に課題のやり取りをしたが、多くの生徒に敬体と常体の混在や主述のねじれなど、文の書き方に課題があることがわかってきた。そこで、以後の課題や休業明けの授業で文の書き方を

重点的に取り上げ、改善を図ることができた。今回の休業期間にはオンライン授業が大きく取り上げられた。確かにオンラインにはオンラインの良さがある。しかし、日頃何気なく出していた課題を少し見直すだけで、授業改善につながることも再認識させられた。日頃の授業にもいかしていきたい。

#### ▶ 条件作文のワークシート

**二百字作文を書こう①**

三年 組 番 氏名 ( )

テーマ

失敗や挫折はすぐに忘れたほうがいい。

書く条件

条件1 文字数は二六〇字以上、三〇〇字以内とする。

条件2 文章は二段落構成で書こう。

条件3 文章は「第一段落には、テーマについて自分の考え(意見・立場)を書こう。第二段落には、その立場を導いた理由および、理由の根拠となる事実や自分の経験を書こう。」

【感想】作文の内容や書き方についての自己評価

チェック欄(書き終わった後、条件どりに書けているか確認し、チェックしてください)

条件1	条件2	条件3

## 2 再開後の授業における 交流活動の工夫

話し合い活動などの交流活動を行う場合、以前から記録などを残すのが難しいということが課題としてあげられていた。まして今日のような状況で、実際に話し合うことが難しい場合にはどうしたらいいか、頭を悩ませるところである。しかし、やり方を工夫することで意見を交流し、考えを広げたり深めたりすることは十分可能なはずである。ここでは、いくつかの工夫を紹介したい。

### ①「話すこと・聞くこと」の交流活動の工夫

「話すこと・聞くこと」の学習では、スピーチや話し合いの映像や音声を見せたり聞かせたりすることが有効である。自分たちが実際に話し合うことができなくても、良い例・悪い例を具体的に示すことができれば、学習者はイメージをしやすくなる。近年は映像機器等も学校現場に普及してきているので、教師自身が作成するのが理想だが、それが難しい場合は教科書や副教材の映像や音声の資料等を活用するとよいだろう。

### ②「書くこと」の交流活動の工夫

「書くこと」の学習では、それぞれが書いた作品をグループ内で回して読み合いをさせる活動が有効である。使う場面としては推敲の場面が考えられる。グループのメンバーからのコメントを読

んだうえで、自分の作品をもう一度見直すことで、個人で推敲するよりも様々な視点から作品を見直すことができる。何より、大がかりな準備が必要ないことが利点である。

### ③「読むこと」の交流活動の工夫

「読むこと」の学習では、個人の考えを書いたものを掲示し、付箋等で考えを交流する活動が有効である。文学的文章の学習のまとめとして、自分の考えを書かせることが多いが、全員が書いたものを掲示し、付箋で疑問や意見を書くことで、書いた方も書かれた方も思考が広がったり深まったりする。この活動を行うときは、広い教室が使用できるのが理想だが、見て回る順序を工夫して対応することも可能であろう。

▲ワークシートの記入例

二百字作文を書こう①

三年 組 番 氏名 ( )

失敗や挫折はすぐに忘れたほうがよい。

書く条件  
条件1 文字数は一六〇字以上、二〇〇字以内とする。  
条件2 文章は一段落構成で書くこと。  
条件3 文章には、テーマについての自分の考え・意見・立場を書くこと。  
・ 第一段落には、テーマについて自分の考え・意見・立場を書くこと。  
・ 第二段落には、その立場を導く理由および、理由の根拠となる事実や自分の経験を書くこと。

私は、失敗や挫折はすぐに忘れてしまっている。二年生の夏の大会の時、自分のミスのせいで地区大会敗退となり、三年生はその試合で引退となり、このときの自分のふがいなみや悔しさが、たいてい思い出す。でも、失敗や挫折は、失敗そのものが悪いのではなく、失敗をバネにすれば成長できると考えられています。

「なぜか〜の理由の文も入れよう」

条件1  条件2  条件3

課題(1) 作文の内容や書き方についての自己評価  
作文の前後でどんな内容が書けるか  
考えのながさを決めた。

## 【編集部がつぶやき】表紙が見えない本

少し前、本の表紙をあえて隠し、各表紙に載せられた数個のキーワードやジャンルなどから自分が興味を持った本を購入するという、書籍販売の形態が話題を呼んでいました。「おうち時間」を過ごすにあたって、読書をする時間が増えている今、いままで読んだことのない本に触れるきっかけとして、また、読書への興味付けとして学校図書館で行うのもたのしいかもしれません。(編集部：大石)

■秀学社は中学校の国語教材を発行しております。教材についてご要望がございましたら、弊社HP「お問い合わせフォーム」まで、ぜひお知らせくださいませ。

秀学社HP

<https://www.shugakusha.co.jp>

